

令和3年1月21日(木)「第23回 湿原再生小委員会」が釧路市観光国際交流センターで開催されました。

■開催概要

小委員会には、14名（個人7名、4団体4名、関係行政機関3機関3名）が出席しました。（コロナウイルス感染拡大状況により一般の方の傍聴は中止させていただいています。）

今回は、「幌呂地区湿原再生事業について」、「達古武湖自然再生事業について」、「広里地区自然再生事業について」事務局より報告があり、それぞれに対する意見交換が行われました。

湿原再生小委員会とは



湿原再生小委員会は、釧路湿原自然再生協議会の7つある小委員会の一つです。毎年1～2回の会議を開催し、湿原生態系と希少野生生物生息環境の保全・再生に関わる以下のような施策について検討をしています。

- ・地盤切り下げなどによる湿原再生
- ・達古武湖の湖沼環境の再生
- ・急拡大したハンノキ林の取扱いの検討

湿原再生の取り組み



釧路川とその流域

幌呂地区（鶴居村）



- ・幌呂地区では、湿原植生の回復を図るため、計画的に地盤の切り下げ、未利用排水路の埋戻しを実施して、地表面が地下水位に近づくことで湿原植生の回復を図っています。
- ・現在は事業を進めながらモニタリング調査を実施しています。

達古武地区（釧路町）



- ・達古武湖では、「繁茂したヒシによる水生植物への影響」や、「富栄養化の原因となる栄養塩類の流入量」を減らすことで生育環境を改善し、水草をはじめ多様な動植物がバランス良く生育している湖の再生を目指しています。

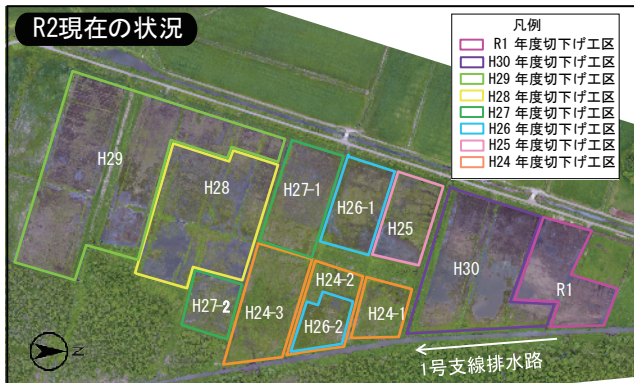
広里地区（釧路市、釧路町）



- ・広里地区では、急拡大したハンノキ林の要因解明と、未利用地となった農地を1960年代以前の湿原の姿へ再生するための手法について検討しています。
- ・現在は検討を終了し、過去に急拡大したハンノキ林の経過を観察するモニタリングを継続しています。

1 幌呂地区湿原再生事業について

◆ 令和2年度の取り組み



地盤切り下げ・未利用排水路埋め戻し箇所のモニタリング結果

- 事業実施箇所の地下水位は、概ね地盤高付近で推移しており、湿原の地下水環境を形成することができました。
- 地盤切り下げを実施してから3年程度で湿原植生が回復しており、湿原植生は経年的に増加しています。
- 地盤切り下げによって新たに形成された開放水面には、タンチョウやカモ類などの水辺を好む鳥類も確認されています。
- 今後も引き続き、地盤の切下げと未利用排水路の埋戻しを継続して実施していく予定です。

地盤の切り下げ後



地盤切り下げ1年目



地盤切り下げ2年目



地盤切り下げ3年目

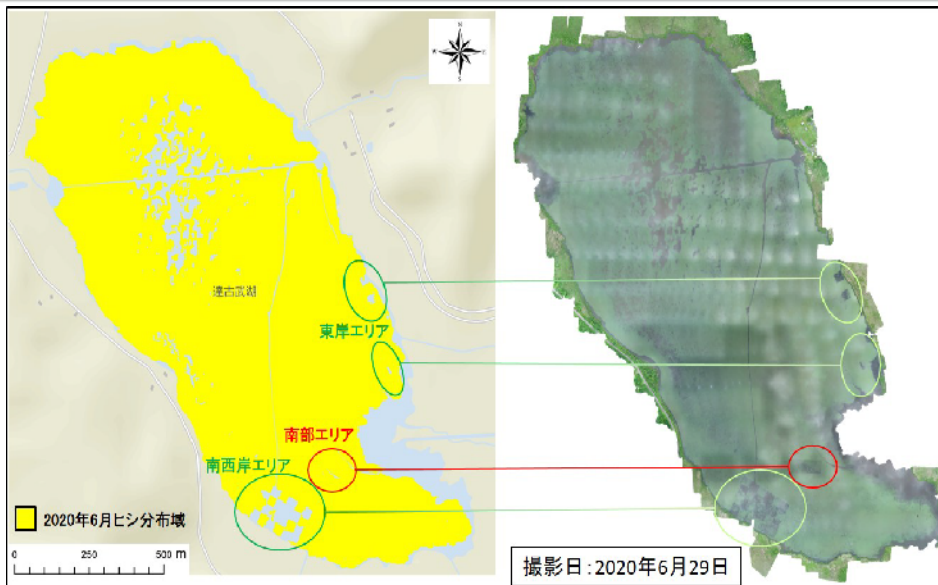
3年で植生が繁茂

地盤切り下げ後の植生状況(H29切下げ工区)

2 達古武湖自然再生事業について

環境省釧路自然環境事務所が取り組みました

◆ 令和2年度の取り組み



浮葉植物の湖内分布

(ヒシ分布制御を継続している南西岸・東岸エリアは繁茂が抑えられている)



繁茂するヒシの状況



ヒシの刈り取りの様子
(ワイヤーを設置した船で刈り取り)

達古武湖のモニタリング結果

- 令和2年度は、達古武湖の水面を覆っているヒシの刈り取りや、湖の水質や水位等の調査を行いました。
- 湖のほぼ全域でヒシが生育し、植物の種数は減少傾向ですが、ヒシ刈りをした場所では、水草の種数が維持されていました。
- 南部エリアでは、ワイヤーを設置した船でのヒシ刈りを面積を倍に増やして行いました。

3 広里地区自然再生事業について

◆ 令和2年度の取り組み



広里地区の全景

ハンノキ林のモニタリング結果

- 令和元年度に行った5年に1回のハンノキ林モニタリング調査をとりまとめました。
- 5年前の平成26年度に行った調査と比べた結果、ハンノキ林の発達・拡大は確認されませんでした。
- 今後は、伐採などの管理は行わず、推移を見守ります。



ハンノキ林の状況

このような意見交換が行われました。



離農後の農地を観察していると、ヨシが多くなってきて湿原に戻っているように感じています。このような変化の様子をきちんと調べたほうが良いのではないかと考えています。



検討していきたいと思います。現地に案内することもできます。



自然再生事業地にいろいろな生き物が入ってきているので、今後機会があれば調査してほしいと思います。



幌呂地区では、今後生き物にどのように利用されているか、調査を検討していきたいと思います。広里地区では、これまでに行った生き物の調査結果を情報提供することができます。



委員長



委員



事務局



「幌呂地区湿原再生実施計画」の概要（平成24年5月）

幌呂地区周辺では、1970年代から湿原を農地として活用するために、幌呂川の切り替え工事や排水路の整備が行われました。その結果、地下水位の低下や冠水頻度が減少により、周辺の湿原が乾燥化し、植生が変化しています。

幌呂地区では、未利用農地の地盤切り下げ、未利用排水路の埋め戻しを行い、地下水位を地表面に近づけて、湿生環境の復元を図ります。



くわしくはこちら 「幌呂地区湿原再生実施計画」

「達古武湖自然再生実施計画」の概要（平成25年2月）

達古武湖には、かつて多様な水生植物が生育していましたが、周辺環境の変化により湖の水質が変化し、アオコやヒシが繁茂して生物の多様性が損なわれています。

繁茂したヒシを除去したり、湖に流入するリンや窒素などを抑えることで環境の改善に取り組んでいきます。



くわしくはこちら 「達古武湖自然再生事業実施計画」

～★★市民参加のイベントを実施しました★★～

より多くの方に事業効果を知っていただくために、幌呂地区ではヨシ苗の移植やハンノキ環状剥皮体験、達古武湖ではカヌーでのヒシ刈り体験や野外教室などを開催しています。

地域の方々との連携（幌呂地区）

- 令和2年9月に地域の方々と幌呂地区の見学を行いました。当日は17名の方々が参加し、ハンノキの環状剥皮（巻き枯らし）や本来の湿原植生であるヨシの苗の移植を行いました。



ヨシの苗移植の様子



ハンノキ環状剥皮の様子

地域の方々との連携（達古武地区）

- 令和2年8月に「カヌー de ヒシ刈り in 達古武湖」を開催しました。16名の方々が参加し、達古武湖でカヌーでのヒシ刈り体験や達古武湖クイズを行いました。
- 令和2年9月には、釧路町立遠矢小学校の5年生と、達古武湖の水草観察などの野外教室を行いました。



達古武湖クイズの様子



カヌー体験の様子

- 北海道開発局 釧路開発建設部 治水課
〒085-8639 釧路市幸町10丁目3番地 釧路地方合同庁舎7階
Tel：0154-24-7354

詳しくはこちら →



- 環境省 北海道地方環境事務所 釧路自然環境事務所
〒085-8639 釧路市幸町10丁目3番地 釧路地方合同庁舎4階
Tel：0154-32-7500

釧路湿原自然再生協議会 湿原再生小委員会

国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部 治水課
環境省 北海道地方環境事務所 釧路自然環境事務所

議事録や会議資料などは
こちらをご覧ください。



第23回 湿原再生小委員会 [出席者名簿 (敬称略、五十音順)]

個人 [7名]

植村 滋 [北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター]
加藤 ゆき恵 [釧路市立博物館]
神田 房行 [北方環境研究所 所長]
櫻井 一隆
清水 信彦
新庄 久志 [釧路国際ウェットランドセンター技術委員長 (環境ファシリテーター)]
照井 滋晴 [特定非営利活動法人 環境把握推進ネットワーク-PEG 代表]

団体 [4団体/4名]

特定非営利活動法人 タンチョウ保護研究グループ [井上 雅子]
総合設備㈱ [亀岡 孝]
釧路湿原国立公園連絡協議会 [事務局長 元岡 直子]
釧路湿原国立公園ボランティアレンジャーの会 [代表幹事 芳賀 孝朋]

関係行政機関 [3機関/3名]

国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部 [釧路河川事務所長 橋本 達也]
環境省 釧路自然環境事務所 国立公園課 [課長 松尾 浩司]
釧路市 [環境保全課 課長補佐 元岡 直子]

資料の公開方法

委員会で使用した資料および議事要旨は、釧路湿原自然再生協議会ホームページにて公開しています。

<http://www.hkd.mlit.go.jp/ks/tisui/qgmend0000003ppq.html>



ご意見募集

釧路湿原自然再生協議会運営事務局では皆様のご意見を募集しています。
電話・FAXにて事務局までご連絡ください。

釧路湿原自然再生協議会 運営事務局

TEL(0154)23-1353

FAX(0154)24-6839